

Joint symposium of veterinary research among universities of veterinary medicine in East Asia での体験

鳥取大学 富田 凜

今回、台湾・中興大学で行われたジョイントシンポジウムに参加し、私は 2 つの初めての経験をしました。

まず一つ目の経験は、初めての台湾の街、台湾の人々との交流である。シンポジウムでは多くの台湾の学生や先生方にお会いした。台湾の方々は、まじめで控えめ、勉強熱心、そして皆日本が大好きという印象を受けた。話をした学生の多くが、卒業したら日本で獣医療を学びたい、働きたいと言っていたことに驚き、とても嬉しく感じた。この出会いを大切に、彼らが来日した際には自信をもって再会できるよう、私はまた日本で研究に励もうと思う。

2 つ目の経験は、初めての英語での口頭発表である。これは、多くの研究者が当たり前に行っていることだと思うが、英語能力に自信の無い私にとっては一大事であった。当日、15 分間の発表を終え、果たして、聴衆にどれだけメッセージが伝わったのかは定かではないが、私はかなり満足していた。少し自信が付いた。この経験を踏み台にし、英語を恐れることなく、今後機会が巡ってきた際には国際学会に参加したいと思う。しかしそのためには、研究の内容も、それを相手に伝える英語の能力もまだまだ充実させる必要があるなあ、と痛感している。

台湾では、これらの他にも多くの貴重な体験（夜市で食した臭豆腐など）をした。今回、台湾でのシンポジウムに参加させていただき、獣医学を学ぶ者として、また人として、このような貴重な経験を得たことにとても感謝しています。



中興大学 動物疾病診断センター前にて